



少量多品種生産 製缶業を支える作業員



現代の製造業において消費者にニーズが多様化し製品仕様の切り替えいや各顧客の異なる要望に細かく対応することが出来るかが課題になっております。一般缶にも丸缶・角缶を初め多品種の形状缶がある中、その多様化するニーズに応えてくれる製缶業で働く作業員の方々について紹介致します。

少量多品種生産とは、多種類の製品をそれぞれ少量で生産する方式で顧客からの小ロット注文や短期的な需要予測に基づいて生産計画を柔軟に生産ラインを切り替える方式です。

在庫リスクの軽減や顧客満足度の向上等がある一方、生産計画・生産効率・製造コスト等の課題もあります。

右写真の生地缶(溶接缶)は、生産ライン(角缶/丸缶)を各1ラインで運用しており、スリッター機(胴板切断機)・溶接機は1台で製缶したものにになります。
※天板や口金は外注依頼です。



色んな缶が
作れるんだね



少量多品種生産でよくある作業……それは、「型替え作業」です。

Aの製品の生産が完了しBの製品の生産を始める為に、機械の設定・金型・部品の交換・使用する材料の準備等を行う作業です。

この作業は、生産ラインが停止しており製品が生み出せていない状況……少量多品種生産では頻繁にある事なので設備の稼働率が低下してしまいます。

そこで支えになるのが、作業員の連携と技術です。

全作業員が……

セットアップ工程を理解し全機械の型替え作業が出来るスキルやそのサポートをする事が出来る。

全機械その日ごとの他作業員のセットアップ記録を確認している。

工具・金型・部品等の取扱い規則を徹底し他の作業員と共有が出来る様にしている。

不良率・稼働率・機械トラブルを記録し製造会議で情報共有し原因究明や対策案等の意見交換をしている。

業務や生産管理者とも連携し、生産計画・仕様変更・追加発注依頼の確認をしている。等々……

代々から引き継がれた知識と経験を元に、

今も作業員は生産効率を維持し向上出来るよう努めております。



さいごに……

こうした作業員の方々を支援し環境を整えていくことは、生産管理者であり経営者としての責務と感じております。今では人手不足・AIの活用・資材高騰等の様々な出来事が起こっておりますが、これからも製缶業に興味を持って頂いた方々を迎え入れられる体制と環境を整えて参ります。

赤羽製罐株式会社

2026年10月1日

一般缶の良さ・楽しさを発信します